

中央大学父母連絡会

2023

# Kusa

# no 草のみどり

# 1

Vol.335

# Midori

**Special feature**

**国家公務員採用総合職試験合格祝賀会**

**FRONT LINE**

**法学部**



Chuo University Parents Liaison Association

# 国際経営学部



Vol.17

## 留学で気付いた国際経営学部の学びの価値と国際的視点

国際経営学部国際経営学科3年  
私立中央大学附属横浜高等学校(神奈川県)出身

相澤 さくら



なし続けられたことが、自分の可能性を信じていることへとつながりました。また、半年後に控えていた長期留学のモチベーションにもなりました。

### ETSUでの大学生活

そして、2021年8月よりアメリカでの留学生活と、初めての本格的な対面授業による大学生活が始まりました。留学先のETSUは自然に囲まれたのどかなキャンパス

学部での学びと留学、それぞれの特徴とともに、国際経営学部での学びがどのように留学に活かされたか、また、最後にはこの留学経験を踏まえた今後の国際経営学部での学びについてお話しさせていただきます。

### 国際経営学部での実践知

私は2020年4月より、中央大学国際経営学部国際経営学科に入学いたしました。国際経営学部は2019年度に発足した新しい学部です。一番の特徴は、日本にいなながらも海外留学をしているかのような感覚を味わえる、学部生の多様性とグローバル人材を育成する国際的かつ実践的なカリキュラムにあると思います。私が入学を決めた二つの理由もここにありました。

一つ目は、授業中の英語が徹底されているところ。国際経営学部では授業の7割以上が英語で行われます。それに伴い、課題や生徒間のディスカッションも英語になります。これにより一番に実感している

新年あけましておめでとうございます。

ウィズコロナの生活となつて早3年が経ちますが、今年度の大学は昨年度までとは異なり多くの授業が対面で行われており、キャンパスに活気が戻ったことを感じます。また、入国規制も緩和され、2022年秋季学期からはキャンパス内でさまざまな国からの留学生を見かけることも多くなりました。入学からも3年が経とうとしている今、国際色のより豊かなフォレストゲートウェイ(国際経営学部生が主に授業で使用している建物)で刺激ある日々を過ごしております。

私は2021年度秋学期より、アメリカのテネシー州にある東テネシー州立大学(East Tennessee State University、以下ETSU)にて約1年間の交換留学を経験しました。交換留学は、中央大学の協定校に半期または1年間留学する制度で、留学先で修得した単位の認定や学費の減免を受けることも可能です。今回は、国際経営

のは、英語への慣れです。全体の約20%

(2021年10月時点)を占める外国籍の学生とのコミュニケーションや授業内のプレゼンテーション、先生への質問・連絡を含め、入学前の生活と比べると英語を使わなければならない場面が圧倒的に増えました。英語で話すことが日常になるので、英語を使うこと自体に抵抗感がなくなりました。国際経営学部の学びを通して得られた大きな成長です。

二つ目は、1年次の夏に行くGlobal Studies Iです。これはGSIと呼ばれる短期留学で、約1カ月間現地の大学で過ごしながら大学付近の社会科学見学もできるという必修カリキュラムです。学部生全員に留学の機会があるというのは、実践的な学びを大切に中央大学国際経営学部ならではの強みです。残念ながら、1年生の時はいまコロナ禍の影響でオンラインになってしまいましたが、約1カ月間、海外大学の授業を受け、短いスパンで大きな課題をこ



ETSU マネジメントの学部棟



Global Studies Iのスピーキングパートナーと



テネシー州プリストルにてナスカー観戦



友人宅にてカップケーキのデコレーション

ンパスで、現地学生による留学生サポートのコミュニケーションも充実しており、留学生を歓迎してくれる温かい人にたくさん出会えました。

私はETSUでマネジメントを専攻しながら、国際関係について学んでいました。国際経営学部では200人程にもなる大人数クラスもありますが、ETSUの授業形態は30人前後の少人数のクラスが多く、生徒の発言も活発で先生との距離がより近く感じられました。試験回数、課題の量とにもとでも多く、授業前後と夕食後は毎日図書館で勉強していました。その中で実感したことは、今まで国際経営学部で学び、経験してきたことの価値です。特に前述した2点は、留学初期から大きなアドバンテージになっていました。英語での授業・課題が国際経営学部では当たり前だったことで、大きなギャップを感じることもなくETSUでの生活にもすぐに適応することができました。

また、特に思い出深く貴重な学びだと感じたのは、Peace, Security, and Human

Development という国際関係や戦争勃発理論について学ぶ授業と、中国政治の授業です。どちらも20人ほどの少人数クラスで、日本、中国、ラオス、アメリカからの生徒が、それぞれの視点で自由かつ活発なディスカッションを行う授業でした。私がニュースやメディアを通して見聞きしてきた日本と主要国の関係性、国際情勢、政治など、高度で専門性の高い内容をアメリカで学べたことで、より国際的な視点を持つようになり、刺激にもなりました。

**今後の学び**

今回のこの長期留学は、今後も国際経営学部で学んでいく意味とグローバルに活躍するためのスキルの重要性について考え直す機会となり、自身の内面的な成長にも大きくつながりました。

また、国際経営学部が大事にする、専門性を備え、実践知を身につけた、グローバルビジネスリーダーへ、というスローガンをより意識して、残りの大学生活を送るためのきっかけをくれたと感じています。

### 国際経営学部だより

## 入学直後に始まる キャリア教育の体系づくり

—有意義な大学生活をおくるには  
「キャリア」を意識させることが大切!—

国際経営学部准教授 **楊川** ようせん

大学のキャリア教育は、高学年の就活支援が主流になっています。早くから情報収集に熱心な学生もいますが、就活が始まってから必要な資格や知識、各種活動の経験の不足に気づき、焦る学生も少なくありません。幸いなことに国際経営学部は、インターンシップ科目や企業訪問、ゲストスピーカーの講演を充実させるなど、キャリア教育に力を注いでいます。このような環境下で、私の担当する授業では、キャリア教育と日々の教育を融合させたキャリア教育のシステム作りを模索していますのでご紹介します。

まず、1年次の入門演習科目では、学生に将来の夢について授業で発表してもらい、その夢の実現に向け、今から取り組むべき活動や科目、必要な課外学習・活動、キャリアセンターの活用方法を指導しています。それと同時に、

“Plan & Action”の策定を通じて夢を日々の行動に反映させるよう、学生に促しています。また、1年次の後期に始まる企業見学活動への参加を強く勧めることで、企業と社会人生活に興味を持ってもらうようにしています。

次に、4年生を2・3年次のゼミに呼び、就活の心構えや就活に向けて取り組むべきことをスピーチしてもらっています。先輩たちの苦労話などを聞くことで、2年次から各種資格の取得に役に立つ必修科目の勉強や語学学修の意欲が高まります。

3年次のゼミでは、学生に自己分析や面接時のポイント、エントリーシートの書き方や業界研究のノウハウを伝授します。キャリアセンターと連携し、企業訪問や就活に関連する講座も開きます。さらに今年は、中大のOBをゲストスピーカーとして招き、海外での働き方について講義してもらいました。学生はローカル言語や外国人とのコミュニケーションの大切さを実感したようです。

3年次の夏休みに私が担当するインターンシップ科目では、授業内で日本の大手企業のデータを収集しました。この作業を通じて、これまで知らなかった企業のことを知ることになり、就活に大変役に立つと学生から好評でした。

キャリアデザインを日々の教育に取り入れたところ、学生は、自分の将来を考えながら、以前より能動的な大学生活を送ることができているようです。このような取り組みは、大学教育の質の向上にも寄与すると考えております。